



◆【加熱雰囲気の違いによるオイルの発生ガス比較】

【概要】

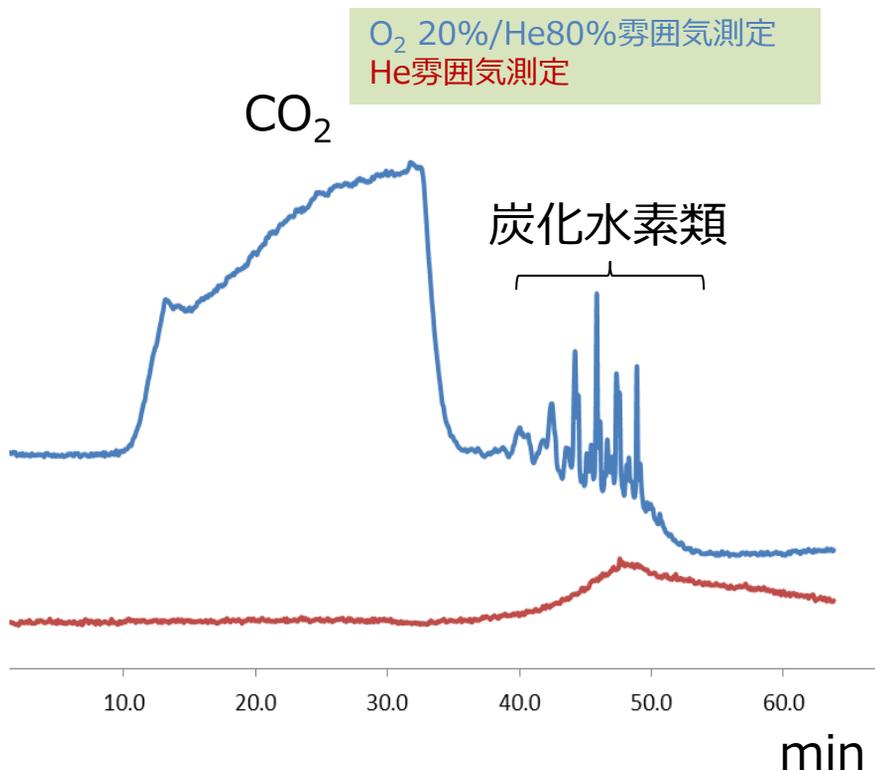
実際の試験と同等の雰囲気（AIR雰囲気）でガスを分析することは、試験行程でのトラブル対応、不良品の原因究明に大きく役立ちます。また、本測定では加熱雰囲気を擬似AIR（O₂ 20%/He80%）にすることで、大気中で加熱した場合と同様の加熱発生ガスの測定が可能となります。

【事例】

加熱雰囲気違いによるオイルの加熱発生ガス比較

オイルはHe雰囲気（不活性雰囲気）はガスはほとんど発生しませんが、O₂20%-He（擬似AIR雰囲気）で測定するとCO₂ガスと炭化水素類が検出されます。

これは擬似AIR中でオイルの一部が酸化分解したためだと考えられます。



O₂ 20%/He80%雰囲気測定
He雰囲気測定

CO₂

炭化水素類

10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0

min

